



市内における自殺の現状と対策について
米田 登美子

質 市内における自殺の現状と今後の対応策はどうなっているのか。
答 室蘭保健所の統計によると、年平均10人が自殺で亡くなっている。動機は病気を苦にしたもの、経済的な問題、家庭での問題など、複数の要因が重なっている。昨年はゲートキーパー育成のための講習会を実施したが、それらも含め、今後有効な対策を関係機関と連携し取り組んでいきたい。



災害時における防災対策について
佐藤 弘子

災害時要援護者の避難場所として、バリアフリー構造の公共・民間の施設を福祉避難所とし、学校を緊急時避難施設として、機能・設備の充実と、民間の高層建築物を避難場所として指定する協定締結の必要性を提案。さらに災害時の確実な情報伝達、吹鳴装置を含めた通信の確保、防災意識の高揚と地域力の育成のため、定期的な訓練の実施と、学校教育における防災訓練を含めた授業内容の充実、各学校への緊急地震速報装置の設置を提案した。



市内経済活性化について
山田 新一

質 商工会議所、建設協会、市議会（一部会派）などから、市内経済活性化のために補正予算を組むべきだとの要望書が出ているが、市の見解を求めたい。
答 国、道からの補助金による建設関連事業があれば補正予算を組めるが、現状の市の財政事情からみて、市単独事業として補正予算を組むことは厳しい。市内の動きや状況を見据えながら、適切な時期に必要な対応をしていきたい。



ごみの分別について
木村 俊子

質 燃やせないごみのうち破砕が困難な物については、臨時職員を配置し前処理を行っているが、その成果と今後についてはどのように考えるか。また、ごみの分別表を再度、市民へ提供すべきではないか。
答 現在、成果を取りまとめており、今後これらを分析してトラブルの防止を検証し、より良い仕組みづくりに取り組む。また、ごみの分別ルールをA3判程度に分かりやすくまとめたダイジェスト版を作成し、全戸配布できるように検討する。



AEDの常備と講習の受講について
渡辺 勉

この夏、一人のJリーガーの死により、AEDを身近に配置することで「救える命がある」と強く感じた。この教訓を生かし、特に市内の各サッカーやスポーツ少年団、部活動指導者にAED講習の受講を勧めることや、市バスにAEDを搭載すべきと提案。市は、現在7千300人の市民と、教職員の約8割がAED講習を受講し、市バス運行時には消防からの借用を検討すると答弁。市バスには、AEDの常備が必要であり、講習の受講についても促すべきであるとたじた。



空き家対策について
村井 寿行

質 今後、高齢化や人口の減少により、空き家問題は深刻な問題となるが、市における空き家や危険家屋についての対策は。
答 空き家の再利用について、地域活性化や地域コミュニティの確保、維持・再生、治安・防災対策などの視点から、関係機関と再利用についての意見交換を行っていききたい。危険家屋については、現地調査を実施し、所有者に対して面談や改善文書の送付などを行っていく。



市職員の町内会参加と鳥獣被害対策について
杉尾 直樹

質 町内会が行政運営に対して重要な役割を担っていることから、市職員の参加実態とその意識について。
答 行政運営にとって町内会が重要であることは認識している。今後は自主的かつ積極的な参加を促す環境を整えていく。
質 国が定める「鳥獣被害防止のための特別措置法」に基づく被害防止計画の作成状況と対策について。
答 平成24年2月に策定し25年度までに一定の成果を期待するが、困難な面も多く、今後は民間活力の導入も検討する。



学校給食の衛生管理について
佐々木 久美子

質 岩見沢市学校給食センターでの食中毒事件を受けて、当市における学校給食センターの衛生管理の現状について。
答 大量調理施設衛生管理マニュアルや学校給食衛生基準を基に業務を行っており、調理場内の湿度を80%以下、温度を25℃以下に保つため、エアコンを設置している。また、食品の安全性を確保するため、ハサップシステムを導入し、6段階中6の最高評価を得ている。今後も衛生管理体制を維持し、安全で安心な学校給食の提供に努めていく。